

ツヤハダゴマダラカミキリの生態と防除

(1) 種名 (学名)

ツヤハダゴマダラカミキリ (*Anoplophora glabripennis*)
特定外来生物 (令和 5 (2023) 年 9 月指定) (写真 1)



写真 1 ツヤハダゴマダラカミキリ

(2) 影響

- ・ 雌が寄主植物 (以下、樹木) に穴を開け、その窪みに産卵し、卵から孵化した幼虫が樹木内へ穿孔、秋～冬に樹木内部を食害します (国立環境研究所)。
- ・ 本種が利用する樹種は非常に多く、樹種ごとの選好性は異なるものの、アキニレ、カツラ、トチノキ、ポプラ、リンゴ、サクラなど、17 科 37 属 61 種で報告されています。また、ヤマナラシ属、ヤナギ属、カエデ属、トチノキ属、カバノキ属、トネリコ属、スズカケノキ属などでは、生活環を完了できることも報告されています (林野庁, 2022)。
- ・ 公園や道路沿いの樹木が加害された場合、部分的に枯死した幹等が台風などの強風により落下し、人的・物的被害を発生させるおそれがあります。
- ・ 樹木の比較的高い部位 (地上 2 ~ 5 m) まで加害することに加え、都市の街路樹のような樹木の少ない条件下においては生息密度が高くなるため (柳ら, 2021)、被害が甚大になりやすい傾向にあります。

(3) 生態の概要

- ・ 中国、朝鮮半島原産です (高橋・伊藤, 2005、後藤, 2024 など)。
- ・ 成虫の体長は 20~35 mm、体幅は 7~12 mm、触角の節には明瞭な白黒の縞があり、触角の長さは雄で体長の約 1.5 倍、雌で約 1.3 倍程度となっており、雄の触角は雌よりも長い傾向を示します (農林水産省, 2005)。
- ・ 幼虫時期の栄養状態によって成虫の大きさが異なる傾向が知られています (林野庁, 2022)。
- ・ 外皮は光沢のある黒色で、上翅に不規則な白色~黄色の斑紋を有します (国立環境研究所)。
- ・ 在来のゴマダラカミキリに類似するものの、ツヤハダゴマダラカミキリの上翅基部には、顆粒状点刻や顆粒状突起がないこと等の特徴があり、区別することができます (秋田ら, 2021、砂村, 2023)。
- ・ 成虫は 5~10 月に見られます (国立環境研究所)。
- ・ 雌が樹木に穴を開け、その窪みに産卵するため、樹木には直径 1 cm 程度の丸い傷 (産卵痕) が残ります (写真 2)。産卵痕から樹液が染み出ることもあります。

- ・ 孵化後、1 齢～3 齢初期の幼虫は樹木の師管部、3 齢後期～4 齢幼虫は辺材部を食害します（国立環境研究所）。
- ・ 樹木の心材部で越冬し、翌 6 月初旬に蛹化、羽化後に 6～18 mm の脱出孔を開けて樹木外へと出ていきます（国立環境研究所）。脱出孔は丸い形（写真 3）をしており、写真のような丸い穴が樹木に多数見られる場合は、本種の発生が疑われます。



写真 2 産卵痕（直径 1 cm 程度の多数の産卵痕）



写真 3 脱出孔（直径 1 cm 程度の丸い形の脱出孔）

（4） 分布状況の概要

- ・ 2002 年 7 月に神奈川県横浜市中区の街路樹（アキニレ）で発生が確認されたものの、迅速な対応により、2003 年 2 月までに防除された記録が残っています（高橋・伊藤, 2005）。
- ・ 2021 年に兵庫県神戸市六甲アイランドで定着が確認され、2022 年 2 月までに、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、富山県、愛知県、兵庫県、山口県で発生が確認されています（国立環境研究所）。
- ・ 中国四国地方環境事務所管内では、2024 年 7 月までに山口県及び広島県西部において発生を確認しており、さらなる分布拡大を警戒しています。

（5） 防除方法

- ・ 物理的防除

被害木の伐倒（可能であれば抜根まで実施）による防除があります。多発生地域では非常に多くの樹木を伐倒する必要があり、伐倒後の木は被害エリア内でチップ化して処理することが望ましいと考えられています（林野庁, 2022）。

なお、同じカミキリムシ類のクビアカツヤカミキリの防除対策として有効な網巻き（ネットを被害木に巻付け、羽化後に他の場所へ飛んでいかなないように閉じ込める）は、本種が樹木の比較的高い部位（地上 2 ～ 5m）まで利用するため、実施が難しいと考えられます。

- ・ 化学的防除

日本国内において、ツヤハダゴマダラカミキリに対して登録されている農薬は、マクロライド系のエマメクチン安息香酸塩を有効成分とする薬剤 1 種のみ（2024 年 12 月時点）となっています。対象樹種は、「さくら」や「樹木類(さくら、デイゴ、ホウオウボク、まつ(生立木)を除く)」となっており、化学的防除を選択する場合は注意が必要です。農薬を使用する際には、農薬使用基準を遵守してください。

(6) その他（参考文献、HP 等）

秋田勝己・加藤尊・柳丈陽・久保田耕平（2021）兵庫県で発見された外来種ツヤハダゴマダラカミキリ. 月刊むし. 601: 41-45.

林野庁（2022）令和 4 年度 ツヤハダゴマダラカミキリによる被害や防除方法等に関する調査事業 実施報告書. pp.98.

後藤益滋（2024）榎野川にて確認したツヤハダゴマダラカミキリ. 山口県の自然. 84: 5-8.

農林水産省 消費・安全局植物防疫課 横浜植物防疫所（2005）輸入貨物の木材こん包材に関する病虫害危険度解析報告書. pp.163.

国立研究開発法人 国立環境研究所 侵入生物データベース. ツヤハダゴマダラカミキリ. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60310.html> (accessed 2024-12-02).

砂村栄力（2023）特定外来生物指定候補カミキリ 2 種について. ペストコントロール 203: 10-14.

高橋直・伊藤正明（2005）横浜市におけるツヤハダゴマダラカミキリの発見と根絶について. 植物防疫所調査研究報告 41: 83-85.

柳丈陽・永幡嘉之・由野歆子・秋田勝己（2021）宮城県におけるツヤハダゴマダラカミキリの発生・定着と新食樹カツラとソメイヨシノの報告. 月刊むし. 609: 23-27.